

# 同窓会報



豊橋技術科学大学ホームページ

第 13 号

'95. 12. 15

豊橋技術科学大学同窓会



# 同窓生諸兄姉へ

豊橋技術科学大学同窓会名誉会長 学長 佐々木 慎 一



地域の熱い要望のもとに誘置され昭和52年に開学、53年に学生を受け入れはじめて20年になる。今秋は開学20周年記念行事が盛大に執り行われることになろう。

本学の設立が構想されはじめた昭和40年代半ばといえは著しい技術革新の波が大学における教

育研究の高度化と多様化の要請となって表われてきた時期である。大学に於てはより創造的な能力を具えた指導的な技術者を養成しなければならない。そのためには工業高等専門学校にあって若年から工学の実践的教育を受けてきた同校卒業生たちを学部（後期）に入学させそこで2年間、さらに大学院（前期）に進学させてそこで2年間、合計4年間の一貫教育を施して世に送り出す、いわば大学院教育に重点を置いた新しい工学系高等教育機関があってもよいではないか。こんな考えのもとに本学は発足したのである。さらに学生の多様化をはかるために後期中等教育段階で実際の技術教育を行う工業高等学校の卒業生と加うるに将来の工業技術者を夢みる普通科高等学校の卒業生をも学部前期課程に迎え入れることとした。当初は6工学課程—エネルギー・生産システム・電気電子・情報・物質・建設—が設けられそれらは学際的に組織されその中で学部大学院の一貫教育がはかられる。また一般教育と専門教育の総合的な実施、積極的な国際交流、学外機関との協力、産学協同、学生の実務訓練の必修等が教育上の特色として打出され、それらはいずれも生成発展して今日に至っている。現在、当初の6工学課程に知識情報・エコロジーの2課程が加わっている。大学院後期課程ははじめ3専攻で発足したものが改組拡充されていまは4専攻となり、修士課程修了後希望する者はさらに研鑽を積んで工学博士の学位を取得する途が開かれている。

ところで多くの卒業生諸君の母校である工業高等専門学校では逐次専攻科が設けられ高専卒業後2年間の在学をもって工学士の学位が得られる状況となった。ただし工学士になるためには専攻科で修得する単位のほかに16単位を外部の大学等から得なくてはならない。専攻科で学びながら他大学へ出向いて16単位を充たすのはそう容易ではない。マルチメディアの時

代、その16単位分を本学から双方向の形で授業を送れぬものかと以前から考えていたが、昨年の第二次補正予算から20億円を越す学校間授業交換の費用が配分され、その夢が叶うこととなった。国立大学（98校）の中で本学がその唯一のモデル校となったわけで、大学の実力が認められたという点大きな喜びとしている。

昨今気になっていることが一つ二つあり、それを諸君にお伝えして機会あればご意見なども承りたいと思っている。

これからさき、技術革新はますます進み人はいま以上に贅沢なくらしを享受できる。飽食にして暖衣。マルチメディアの技術は人を思ってもみなかった快適空間に導いてくれる。21世紀はまさにバラ色の世紀である。だが本当にそうか。1950年25億の世界人口はいま57億5千万。この調子でいけば2050年には100億に達するという。そのとき食糧、エネルギー資源は十分にあるのだろうか。日本は今でも食糧の60%近くを輸入に頼る。ハイテクを売った金で食糧を買うことがいつまで許されるのか。中国は既に食糧輸入国に転落し、2020年頃には1億5千万トンを外に仰ぐことになりそうだ。途上国は必死になって生活向上をめざし、先進国もODAでこれを助けている。2050年を待たずに食料も資源も問題が顕在化しそうだ。化石燃料もきわめて心細い。そしてこれに代替できるのはいまのところ問題の多い原子力だけである。革新技術は人にアメニティを与えるその裏側で環境をこわしてきたし、さりとて環境を護れといわれればエネルギー消費を抑せねばならず、これは産業を冷やし経済成長を低下させる。環境・エネルギー・経済は三つが揃って鼎立できるものではない。

技術開発に携わる者にとって今ほど難しい時はない。地球破壊、環境汚染そしてその先にある人類の未来への危惧。考えるほどにそれに対応できるテクノロジーとは一体何なのかと思ってしまう。これに応える技術開発の指針にユニークな解はない。各人各様、人類の未来に思いを潜めつつそれぞれの仕事をしてゆくほかはない。人類は叡智のかたまりである。その叡智が人類の未来を保証することにつゆ疑いを抱くものではないのであるが。

何かの折に若い諸君のお考えも伺いたいものである。

# 学 内 近 況 報 告

## エネルギー工学系

卒業生、修了生の皆様、お元気で過ごしてはいかがでしょうか。記録的ともいえる暑い日が続いた夏を過ぎ、朝夕には肌寒く感じられるようになった9月の下旬にこの原稿を書いています。

さて、この1年間はエネルギー工学系の教官の出入りが多かったため、先ずそのことからお知らせさせていただきます。

第1講座の後藤先生の研究室に中西康彦氏（東京大学大学院博士課程修了）、第2講座の高木先生の研究室には内山直樹氏（都立大学大学院博士課程修了）、また第3講座の竹園先生の研究室には同研究室OBの咸本広文氏（本学大学院博士課程修了）の3人の新人が平成7年4月1日付けで助手として採用されました。さらに、李長生氏が本学大学院博士課程を中退して、7月1日付けで教務職員として採用されました。上村先生の研究室の所属です。ここしばらく若手が不足していたので、4氏の加入は大変喜ばしい限りです。なお、内山先生は沼津高専のOBです。

次に、転出された先生についてお知らせします。第3講座の助教授をしておられた陳健橋先生が4月1日付けで鳥取大学工学部に移られました。また、蒔田先生の研究室の助手として秋田高専から赴任しておられた渡部英昭先生が、2年間の任期を終えられ、9月1日付けで前職に戻られました。

以上のような異動の結果、エネルギー工学系の職員の構成は以下になっています。

### [第1講座（熱・流体工学講座）]

教授：後藤圭司，三田地紘史，日比昭  
助教授：中川勝文，北村健三，柳田秀記  
助手：鈴木孝司，中西康彦

### [第2講座（エネルギー変換工学講座）]

教授：小沼義昭（系長），蒔田秀治，高木章二  
助教授：野田進，鈴木新一  
助手：内山直樹

### [第3講座（機器設計学講座）]

教授：竹園茂男，本間寛臣，上村正雄  
助教授：埜克己，畔上秀幸，関東康裕

## 柳田秀記

Dzimko Marian

助手：咸本広文

教務職員：李長生

[技官] 徳増学，森川正治，神谷昌宏

[系事務] 永井一彦，野亦真理子

本間先生は国際協力事業団の専門家として相変わらずインドネシアに長期出張中です。期間は平成8年7月までです。なお、Dzimko Marian先生は平成8年3月末をもって、母国スロバキアに戻られる予定です。

また、平成6年度よりエコロジー工学系に移られた吉川典彦先生は4月1日付けで母校名古屋大学の工学研究科航空宇宙工学専攻に転出されました。同じくエコロジー工学系に大竹先生とともに移られた成瀬一郎先生が、5月1日付けで助教授に昇格しておられます。なお、かつて後藤先生の下で助手をしておられた、本系OBの古内正美先生が転出先の金沢大学工学部で助教授に昇格されています。

以上が職員の異動に関わる話です。就職状況は言わずもがな、今年も大変厳しいものでした。それでも大部分の学生の就職先が内定しており、安堵しております。申すまでもなく、以前に比べれば有名企業への内定はかなり減少しています。

ところで、エネルギー工学系だけの同窓会が設立されていることをご存知でしょうか。設立されたといっても、まだ特に会則等を定めた正式なものではありません。会長には1期生の今泉敏幸氏に就任していただいております。他の役員スタッフは取りあえず、大学に残っている私と咸本氏で構成しています。銀行と郵便局には口座を開いたけどもあまり資金がない、というのが現状で、同窓会としての活動はまだこれといって行われておりません。しかし、近い内には（2、3年内には）エネルギー工学系同窓会の設立総会と称した懇親会でも開催したいと思っています。その節には多数の方がご出席されることを期待しております。

皆様の益々のご健康とご活躍を祈念いたします。

(P. S.)

卒業・修了生の名簿の作成は同窓会活動の中の重要



なものの一つですが、現住所等の正確な情報が十分把握できていないのが現状で、会報などを帰省先に送付しなければならぬ方が多数おられます。皆さんお一人お一人の現住所等が記載された紙が同封してありますので、ご確認の上、変更や未記入事項等がございましたら、同封の住所連絡用の葉書にご記入いただい

て、ご返送いただきますよう強くお願い申し上げます。平成8年は本学開学20周年に当たり、それを機に新しい同窓会名簿を作成・発行する予定になっています。このこともご理解いただいてご協力下さいますよう、重ねてお願い申し上げます。

## 生産システム工学系

卒業生、修了生のみなさん、猛暑の中いかがお過ごしでしょうか。今年も昨年同様、就職戦線にはたいへん厳しいものがありますが、なんとか頑張っています。

今年度の系教官の異動状況をお知らせします。大学院博士課程の4専攻化に伴い、研究室構成スタッフの若干の変動がありました。

まず、加工学大講座では、前系長の岡根 功教授が定年退官され、後に本学名誉教授になられました。また梅本 実助教授が材料学大講座の教授に昇任されました。さらに王 力翬助手が神戸大学から赴任されました。これにより研究室は、塑性加工（中村、牧、原田）、接合加工（星、福本、王）、精密加工（堀内、池野）となりました。

材料学大講座では、新家光雄助教授が教授に、横山誠二助手が講師にそれぞれ昇任されました。また高橋勝彦助手が富山高専講師に、古井光明助手が名古屋大学助手にそれぞれ転任され、増山圭一助手が富山高専から赴任されました。さらにSUBRAMANYAM SEETHARAMU 助手が辞職され、加工学大講座の研究員であったKRISHNAMURTHY RAVIPRASAD さんが教務職員に任用されました。これにより研究室は、製錬工学（川上、竹中、横山）、機械材料（梅本、新家、増山、RAVIPRASAD）、材料保証（小林、村田、山本）となりました。

生産計画学大講座では、本学博士課程を修了した濱口雅史さんが助手に任用されました。その結果各研究室は、工程制御（寺嶋、兼重、濱口）、計測システム（北川、三宅、堀畑）、システム解析（小野木、崔、橋爪）

## 福本昌宏

となりました。

この様な異動をまとめて、現在の2系教職員は以下のようになっています。

### [加工学大講座]

教授：星鐵太郎（系長）、中村雅勇、堀内 宰（工作センター長）

助教授・講師：牧清二郎、福本昌宏、池野順一  
助手・技官：原田泰典、王 力翬、小楠和彦

### [材料学大講座]

教授：小林俊郎、川上正博、梅本 実、新家光雄  
助教授・講師：村田純教（工作センター）、竹中俊英、横山誠二

助手・教務職員・技官：山本 勇、増山圭一、  
KRISHN AMURTHY  
RAVIPRASAD、白井宏始

### [生産計画学大講座]

教授：北川 孟（専攻長）、小野木克明、寺嶋一彦（系長補佐）

助教授・講師：三宅哲夫、崔 文田

助手・技官：堀畑 聡、橋爪 進、兼重明宏（技開センター）、濱口雅史、椿 正己

また系事務室では、伊藤道予さんが入学主幹に移られ、かわりに庶務課から青木圭子さんが来られました。

最後に、2系教職員一同、卒業生、修了生の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈りしております。

## 電気・電子工学系

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしですか？ 今年就職状況は昨年以上に厳しかったようですがほぼ内定しました。開学以来就職難とは無縁でありましたが、バブル崩壊以降、とくに昨年からは電気・電子系も厳しさを肌で感じています。就職・実務訓練等で今後とも先輩諸氏の暖かいご支援を後輩達にお願いいたします。

ここ1年間の電気・電子工学系の動向をお知らせいたします。本年度から新たに大学院リフレッシュ教育の一貫としまして社会人在職のまま博士前期・後期課程へ入学できる受け入れ枠を定員化しました。これは理工系大学で初めてのケースです。同窓生の皆様も興味のある方はご連絡ください。

新任教官としましてクリーンパワー変換工学担当の恩田和夫先生が電気システム大講座教授に通産省工業技術院電子技術総合研究所から赴任されました。韓国の国立慶北大学から辛 長奎先生が2年間電子デバイス大講座の助教授としてこられました。また、本学の博士課程を卒業された村本裕二さんと見目喜重さんが電気システム大講座助手に採用されました。

一方、藤井壽崇先生が技術開発センター長を兼任され、井上光輝先生が技術開発センターの助教授に移られました。石井新之助講師が一関工業高等専門学校助教授に転任されました。

このような移動を含めた現在の3系の教官スタッフは、以下のようになっています。

[基礎電気電子大講座]

## 石 田 誠

教授：藤井壽崇、英 貢、太田昭男  
助教授・講師：服部和雄、内田裕久  
助手・教務職員・技官：カバレロフ・ワジム、嶋田 哲也、福永哲也、前田勝典

[電気システム大講座]

教授：小崎正光（系長）、恩田和夫、榊原建樹  
助教授・講師：長尾雅行、榊 守  
助手・技官：中川重康、村本裕二、見目喜重、日比 美彦

[電子デバイス大講座]

教授：吉田 明（系長補佐）、米津宏雄  
助教授：並木 章、朴 康司、石田 誠、辛 長奎  
助手・教務職員・技官：松本佳宣、大島直樹、ガン ジュ・アシュトシユ、足木 光昭

そのほか、ニュースとしまして、朴 康司助教授が現在英国インペリアルカレッジに来年の7月中旬まで在外研究員として滞在されていますのでロンドンへ行かれる方はチャンスです。また、固体機能デバイス施設が昨年来稼働し、LSIの教育・研究に利用されています。本年度は、15年間のLSI社会人教育の業績に対して日本工業教育協会から「業績賞」が電子デバイスの教官に授与されました。

最後に、卒業生・修了生の皆様のご健康とますますのご活躍・ご発展をお祈りいたします。

## 情 報 工 学 系

卒業生、修了生のみなさん、元氣でご活躍のことと思います。

さて、本年は例年以上に、多くの方の移動がありました。

まず計算機大講座では、日本電信電話㈱より梅村恭司先生が助教授として赴任され、東京大学博士後期課程出身の峯松信明先生が助手として着任され、本学博士後期課程出身の貴島寿郎先生が教務職員になられました。さらに、6月には福井工業高等専門学校電子情

## 井 上 克 己

報工学科より青山義弘先生が助手として赴任されました。なお、湯浅太一先生は本年1月に教授に昇進され、助手の山本幹雄先生は筑波大学電子・情報工学系講師として転任されました。

また、情報処理大講座では、三洋電機㈱より片山正純先生が講師として赴任され、東京大学博士後期課程出身の廣田光一先生が助手として着任されました。なお、講師の山北昌毅先生は東京工業大学工学部助教授として転任され、教務職員の石井宏幸先生は本学情報

処理センター助手に昇進されました。

このような異動により、現在の情報工学系の教職員は次のようになっています。なお、氏名の後のアルファベットは電子メールアドレスのユーザ名であり、“ユーザ名@tutics.tut.ac.jp”により、各先生にメールを送ることができます。

[計算機大講座]

教 授	中川聖一	nakagawa
	今井正治	imai
	湯浅太一	yuasa
助 授	梅村恭司	umemura
	井上克己	inoue
講 師	奥山 徹	okuyama
助 手	峯松信明	mine
	青山義弘	aoyama
	塩見彰睦	shiomi
教務職員	貴島寿郎	kijima
技 官	片岡嘉孝	kataoka

[情報処理大講座]

教 授	金子豊久	kaneko
	白井史朗	usui
	伊藤宏司	koji

講 師	戸田尚宏	toda
	片山正純	katayama
助 手	廣田光一	hirota
	中内茂樹	naka
	鄭 心知	zhengxz

[情報システム大講座]

教 授	宮崎保光	miyazaki
	田所嘉昭	tadokoro
助 授	後藤信夫	goto
講 師	川人祥二	kawahito
助 手	黄 新民	huang
	肖 業貴	xiao
技 官	宮脇治雄	tmiya

今年度の情報工学系系長は昨年度に引き続き中川先生であり、系長補佐は伊藤先生、就職担当は今井先生です。今年の就職状況は非常に厳しいものでしたが、この傾向はしばらく続くことが予想されます。卒業生・修了生みなさんのご支援のほど、よろしく願います。

最後に、教職員一同、卒業生・修了生のみみなさんのご健康とご発展をお祈りしております。

## 物質工学系

今年は年の始めから大きな災害や事件が続き、気忙しい、いつになく月日の移りが早く感じられますが、卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

平成7年9月現在の物質工学系の教職員は以下のようになっています。

工業無機化学大講座：亀頭直樹教授、逆井基次教授、大串達夫助教授、角田範義助教授、前田康久講師、水嶋生智助手、Pezzotti Giuseppe 助手、佐藤裕久教務職員、大北博宣教務職員、齊藤年秀技官。

工業分析化学大講座：小松弘昌教授、神野清勝教授、青木克之教授、平田幸夫助教授、吉田祥子助手、太田初一技官。

工業有機化学大講座：堤 和男教授、伊藤浩一教授、西山久雄教授、竹市 力助教授、永島英夫助教授、伊

## 前 田 康 久

津野真一助教授、松本明彦助手、川口正剛助手。

分析計測センター：加藤正直助教授、服部敏明助手。  
事 務：奥田重美事務官。

本学開学以来、教育・研究にご尽力頂きました伊藤健児先生が名大へ転任されました。また長畦慎一先生が東京高専に移られ、吉田先生が赴任されました。鈴木慈郎先生と坂井悦子技官がエコロジー工学系に移られました。

最近、大学構内を歩いていますと、生長した木々の緑が美しく落ちついた雰囲気を感じ取ることができます。機会がありましたら、母校の様子を見にお訪ね下さい。皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りいたします。

## 建設工学系

## 河 邑 眞

同窓会の皆さんには元気で活躍されておりお慶び申し上げます。さて、教室の近況についてお知らせします。

定方先生が本年3月をもって定年退官されました。大学の運営、建設工学系における研究、教育など多くの面で活躍された定方先生のご努力に教官一同深く感謝しております。定方先生は現在出身地の前橋にお住いですが、豊橋のサイエンスクリエイトを通して地域の産業、研究の発展にご尽力いただいております。

平成7年4月に、構造大講座の草間先生が大阪大学環境工学科に転出されました。草間先生の研究分野の一つであるコンピュータグラフィックスは今後の建設工学における研究・教育において不可欠の道具であり、先生の研究成果を我々も利用させていただけることを期待しております。一方、構造大講座の助教授として田中先生が本年4月に、ニュージーランドのカンタベリー大学より転任されました。ご専門はコンクリート工学です。外国の大学で勤めておられた経験から、教室運営に対して新しい意見をいただいております。構造大講座助手の雷先生が平成7年7月に辞職されました。杭と地盤の相互作用の問題などの研究をされており、技科大辞職後はカナダの大学へ勤められると聞いています。

計画大講座助教授として瀧沢先生が本年4月に小山高専より転任されました。ご専門は建築計画で、高齢化社会における建築計画などを研究課題とされている

と伺っています。計画大講座助手の森先生が本年4月に筑波にある筑波技術短期大学に転任されました。新天地でのご活躍を期待しています。また、森先生の後任として、本学修士課程を平成4年3月に修了した野澤先生が教務職員として本年9月赴任されました。野澤先生は修士修了後、ロンドンのアーキテクトスクールで勉強されており、海外での見聞をいかして研究、教育に当られることを期待しています。以上が建設工学系における教官の移動に関する近況です。

平成7年9月現在における6系の教育、研究体制は以下のとおりです。

[構造大講座] 栗林教授、角教授、加藤教授、田中助教授、山田助教授、河邑助教授、浅草助手、高島助手

[環境大講座] 北尾教授、本間教授、中村教授、松本助教授、青木助教授、東助手、山本助手

[計画大講座] 小野木教授、三宅教授、渡邊教授、瀬口助教授、廣島助教授、大貝助教授、西澤助手、大塚助手、野澤教務職員

[8系・協力] 北田教授、木曾助教授

今年度の6系系長は三宅先生、系長補佐は本間先生、就職担当は角先生です。本年は住宅メーカーへ就職する人が多くいました。本学も来年20周年を迎えます。同窓会のネットワークも大きなものになっているものと思います。互いに連絡をとり同窓会活動を旨く活用されることを期待しています。

## 知識情報工学系

## 河 合 和 久

はじめに、とても悲しいお知らせをしなければなりません。平成6年4月23日、宮下芳勝先生が、7月8日、吉田辰夫先生が、ご他界されました。心より、お二人の先生のご冥福をお祈り申し上げます。

平成7年9月現在の知識情報工学系の現況は、以下のとおりです。

[情報科学コース]

教 授：齋藤制海、磯田定宏  
助 教 授：増山 繁、河合和久  
助 手：徐 粒

[分子情報工学コース]

教 授：大澤映二、阿部英次  
助 教 授：高橋由雅、船津公人  
講 師：デル・カルピオ・カルロス・アドリエル  
助 手：本多一彦

[機能情報工学コース]

教 授：伊藤嘉房、山本眞司  
助 教 授：杉田陽一  
助 手：神山齊己、江 浩、ラザフィマナンテナ・エドアルド・アンジアナリジャウナ

## [社会経済情報コース]

講 師：赤松 隆

## [事務室]

教務係（技官）：小西和孝

学 系 係：河合孝弘

## [学生現員]

学 部：1年次12名，2年次14名，

3年次58名，4年次56名

修 士：1年次39名，2年次47名

博 士：1年次11名，2年次8名，3年次6名

情報科学コースの鶴見 智先生は、4月より群馬工業高等専門学校に赴任されました。社会経済情報コースの鈴木 康先生は、3月をもって退官されました。なお、鈴木先生には、本学名誉教授の称号が授与されました。

最後に、卒業生、修了生のみなさまのご健康と、一層のご活躍をお祈りいたします。

## エコロジー工学系

エコロジー工学系は平成5年度に新しく8番目の系として本学に設置されました。現在1年生13名（内女子5名）、2年生17名（内女子4名）、3年生50名（内女子3名）が在籍し、新しいカリキュラムに戸惑いながらも勉学に励んでおります。3年生の実験ではひとりひとりが電子回路を作製することになっており、初めてハンダごてを握る学生にはたいへんなようです。

建物は知識情報系建屋の西隣に建設予定で、9月には職員による安全祈願を行いました。平成8年度末には竣工（完成）する予定です。

以下に教官の異動を示します。

## [生物基礎大講座]

鈴木慈郎（教授，H7.3.1 5系より8系に配置換え）

菊池 洋（教授，H7.2.1 着任）

Siddiqui, Shahid Saeed（助教授）

安田八郎（助手）

長畦慎一（5系助手・協力教官，H7.4.1 転出）

田中照通（教務職員，H7.4.1 着任）

## [生物応用工学大講座]

水野 彰（教授，系長補佐）

藤江幸一（教授）

田中三郎（助教授，H7.3.1 着任）

黄 霞（助教授，H7.3.16 着任）

桂 進司（助手）

胡 洪営（助手）

松澤有希子（助手，H7.4.1 着任）

辻 秀人（技術開発センター助手・協力教官）

## 田 中 三 郎

## [生態環境工学大講座]

大竹一友（教授，系長）

北田敏廣（教授）

木曾祥秋（助教授）

吉川典彦（助教授，H7.4.1 転出）

金 熙濬（助教授）

成瀬一郎（助教授，H7.5.1 昇進）

## [事 務]

石黒真樹（H7.4.1 8系に配置換え）

城戸美智子（旧姓大井）

吉川先生が名古屋大学の助教授として転出され、また、長畦先生が東京高専の講師として転出されました。新たに加わった先生方は5名で、生物基礎大講座には三菱化学学生命工学研究所から菊池 洋先生と田中照通先生を迎えました。生物応用工学大講座には中国清華大学より黄 霞先生、名古屋大学より松澤有希子先生、住友電工伊丹研究所より田中三郎を迎えました。事務の方もこれまで城戸さんひとりに頑張ってもらっていましたが、新たに石転さんに来ていただきました。

新しい学科であり、教官、学生共に一生懸命です。知名度をアップするために、W.W.W.で学科紹介をしております。いまのところ、全研究室を紹介するには至っていませんが、拡充に務めております。インターネットが使える方は一度覗いてみて下さい。

（アドレスは<http://mizlab.eee.tut.ac.jp>）



**人文・社会工学系**

平成7年1月以降の系内の動きをお知らせしましょう。昭和58年に本学に赴任され、教育・研究に尽力された鈴木 康先生が3月31日をもって停年退官され、名誉教授になられました。先生の今後の益々の御健康と御発展を祈念します。

鈴木先生の在籍された計画・経営講座では、山口 誠先生を教授として宮田 譲先生を助教授としてお迎えしました。

小杉隆芳先生と浜島昭二先生が4月1日で教授に昇任されました。

同じく4月1日学内の事務の配置換えにともない、宇津山豪一（ひでかず）氏が9系の事務処理を担当されていた三輪恵子氏は学務課へ移られました。

**平 松 登志樹**

以上が人事関係ですが、先生がたの海外研修活動をお知らせします。

野澤先生はボンド大学（オーストラリア）で英語教育法の研究に従事されてきましたが、4月に無事お戻りになりました。宮田先生（台湾）、寺澤先生、山内先生、村松先生（中国）、安田先生（ノルウェー、デンマーク）、加藤先生（中国）、河合先生（マレーシア）が学会、学術交流などで海外に出張されました。

その他、B棟では学外との電子情報の交換が活発におこなわれるようになり、語学センターはインターネットにつながったCALLラボが設置されました。9系の教職員一同、元気でがんばっています。

# 退官教官より

平成6年度

## 複合雑感

※この原稿は、大学の協力により「天伯」から転載したものです。

生産システム工学系 教授

岡 根 功



私の好きな言葉に「複合」があります。何時、どんな動機で好きになったのかは釈然としません。現状では、この語句を付した用語があらゆる分野で極めて多く使用されています。例えば、複合汚染、複合社会、複合材料、複合加工……等あらゆる状態・状況を意味する用語として世の中で気軽に用いられています。「広辞苑」や「国語大辞典」等によれば、「複合」とは、いくつかの物が集まり一つになる用語とされています。また、これの対語としての「複雑」は、物の構造や物事の関係が混み合っている・色々な要素が絡み合っていて判り難いことを意味する用語として使用されています。独断と偏見に満ち溢れ、いささか赤面の感はありますが、複合についての私見を述べさせていただきます。

加工技術の複合化の歴史は極めて古く、人類が道具を使うようになってから始まっていると言っても過言ではありません。これは、初めは石塊のような極めて単純な道具から出発して、これに柄をつける等して、省力化、高効率・高能率化を図ろうとしたことが動機で技術の複合化が始まったと考えられるからです。複合化された道具の効果を判り易く数式で表せば、

(形状的)  $1 + 1 = 1$   
 (機能的)  $1 + 1 = 2, 3, 4 \dots$

のようになり、複合化された一つの道具が大きな威力を発揮することが容易に理解されましょう。以下、一例として、セラミックスと金属との複合部材創製を採り挙げて上述のことの概説を試みたいと思います。

工業があまり発達していなかった時代では、用心堅固のたとえに「石橋を叩いて渡る」とあるように石は頑丈で決して壊れることのない物質の代表と考えられていました。しかし、現在では、「石橋も叩き過ぎると壊れて落ちる」と訂正する必要があります。何故ならば、科学技術の進歩に伴い、周囲の環境が「叩く」から「叩き過ぎる」という厳しい条件へと変化したからです。これには、石橋のように単独の材料のみで作製

された部材で対処することは不可能で、2種以上の材料の特長を有機的に組合わせた複合部材にたよらざらなければならないのが実情です。例えば、セラミックス材は、熱的・化学的性質(耐熱性、耐食性等)に優れていますが、加工性(成形性)及び靱性や耐熱衝撃性等の機械的性質に難点を有しています。一方、金属材料は、熱的・化学的性質は、セラミックスより劣るが、機械的性質や加工性において優れた特性を有しています。したがって、厳しい腐食や高温の場で使用する機器には、セラミックス材料を性能材に、また、この材料の欠点を補うための構造材に金属材料を用い、それぞれを合理的に組合わせた複合部材を適用することが、現状で最も妥当で唯一の手段であると考えられます。このような複合部材の多くは難加工性であり、従来の加工技術のみで創製することはできません。これには、従来の個別加工法間に横たわる壁を取り払い新しい発想による新加工法、すなわち各種加工法の短所を補い合うように、それぞれの長所を要求される加工条件に適合するよう有機的に組合わせた加工技術の複合化、あるいは各種加工法間の境界領域的な技術及び既存の加工技術を合理的に応用した新加工プロセスを開発する必要があります。

私は、大学・国立研究所・大学と3度職場を変え、41年にわたる国家公務員としての職を去ることになりました。いずれの職場においても新しい研究室や研究グループの建設に携わってきました。この経験で得られましたことは、異極間では引力(同極間では斥力)が、また一般に同性間では繁殖しないといわれている物理学や生物学等で証明されているのと同様に、異質の研究者で編成されたグループほど、科学技術の進歩に対して貢献度の高い成果を挙げることが可能であるということでした。

最後に、複合について、散らし書きのように思いつくまま述べてまいりましたので、記述内容が複雑になりましたことを深くお詫び申し上げますとともに、本学のますますの御発展を祈願しつつ駄文を終わらせて頂きます。

## 新しい木の構造と私

建設工学系 教授

定 方 啓



昭和54年、私はそれまで続けてきた柱の弾性安定理論の工学的適用、弾性体の有限変形理論の研究にとらわれない実践的な分野を模索していた。見渡したところ、建築学界では、木構造の分野が在来構法と伝統構法とに安住していて研究者が少なく、構造力学面での追求が殆どなされていない。どうせゼロから出発するなら木構造の研究にシフトしようと考えた。その上、お金も設備もない所で実験をやるのに、木構造ならば試験体は手作りでもできるし、載荷装置も大袈裟なものでもなくてもよいということもあった。第一回生加賀谷祐治氏（現東洋エンジニアリング）が私の研究室に入ってきた。という聞こえはいいが実験機器は何もない。部屋と机と小生のほかは。開学当初に頑張って反力壁や地下室、走行クレーンなども完備した実大規模の構造実験ができる低層実験棟(E)を建てて戴いたがこれを有効に使う大規模実験は望むべくもなかった。

そのような訳で、私たちの木構造の実験的研究は木片と釘と金槌があればできる「釘剪断接合」から始まった。1970年代ころから高分子化学工学の進歩に伴って各種の高性能接着剤が開発された。鋼材の接合からコンクリート打ち継ぎまでも接着剤が利用される様になってきた。木の接合になんとか接着を活用できないかと考えた。1980年頃から接着併用釘剪断接合継手の実験を始めた。その結果、接着面の剪断力と釘の引き抜き剪断耐力との相互作用、初期剛性や靱性について幾つかの知見が得られた。この接着併用接合のうちカプセルアンカー工法は木材の小口接合に威力を発揮することが判った。

阪神淡路大地震で威力を発揮したと言われる壁式構造を構成する要素としての壁パネルは、柱に張るシース(板)の種類によって壁剪断耐力と変形挙動が異なる。当時、すでに幾つかの研究機関ではシースが合板の場合の壁パネルの実験は実施していて、在来構法の筋違壁要素に比べて上回る剪断耐力と壁剛性を持つことが明らかにされていた。私の研究室ではシースを石膏板にした石膏ボードパネル壁について実験をくり返した。結果は合板パネル壁に比べて耐力はやや劣る

けれども木構造の特長である復元力特性が良く、繰り返し載荷による破壊までのエネルギー吸収の度合いが大きいこと、即ち、靱性が高いことが実証された。

靱性を持つ筋違壁を造るのには柱と土台と筋違いとが集まる接合部の設計が要点である。住宅金融公庫などで推奨している鉄骨のガセットプレート接合型の鉄板釘打ち接合は部材に割裂が発生する。そこで在来構法の「引きボルト」手法を応用した接合金物を開発し、新形式の筋違い壁要素の繰り返し載荷実験によってこの壁要素の靱性の高いことを立証した。その後、この構造形式で組み立てた実大の木造2階建住宅に、2方向の繰り返し載荷実験を実施した。

1980年代になると、ようやく研究機器も集まり、研究費も少しは使えるようになってきた。集成材を柱、梁に使った中規模ラーメン構造が建築されるようになり、柱・梁接合部のモーメント抵抗容量の定量化が必要になってきた。T. U. T. の研究室でも、集成材の柱・梁接合部の構造実験を開始した。繰り返し荷重を加えて弾・塑性から破壊状態までのモーメント抵抗力、エネルギー吸収性状などを測定し、木構造の性質に適した柔らかい剛接合継手の開発の資料とした。和風継手の特長の一つである「込み栓」を打ち込んでプレストレスをかける手法を取り入れた天秤鎌継ぎ接合金物を試作して実大フレーム実験を実施したのは1992年であった。1980年代の初期から日本全国で杉の間伐材の利用方策が提案されてきた。昭和30年代に杉や檜を一生懸命に植えていたときにはとても考えられないことが起きていた。外国産材が低い価格で輸入され、森林の健全な育成のために間伐して搬出される小径材は、山から伐り出して製品にする経費が市場価格を上回るようになった。従来、これら間伐・小径材が使われていた分野は鋼材、プラスチック製品に代わってしまっていた。そこで、新しく、大量にしかも有効な杉の小径材の利用として建築構造材が注目された。私の研究室ではこの長さ2~3m、丸太径15cm以下の小径材で立体トラス版を構成することを考えて、部分実大模型実験をくり返した後、この構造システムは40m×8m、版厚75cmのピラミッドユニット連続屋根版を径40cmの丸太柱で支える集会所(新城市)に応用された。

## 復興・成長から持続志向へ

——追跡・開発模索の歩みを省みる——

人文・社会工学系 教授

鈴木 康



戦後50年を迎える。敗戦の衝撃から立ち上り今や世界GNPの15%を占めるまでになった日本経済の足跡を振り返りながら、最近の動向との関連を探り今後の指針ともなり得べきものを求め

て、ご参考に供したい。

(1) 戦争の被害と遺産：死者310万人、国富の4を失ったが、重化学工業の生産設備は戦前よりはるかに大きい能力を残しており、これが戦後の重化学工業化の基礎となった。また、下請制の普及、金融系列の形成、官庁と企業、日銀と銀行間の指導関係、年功序列賃金や終身雇用制の全国的普及、企業別労働組合の母胎（産業報国会）、健康保険、食糧管理制度、あるいは軽工業地帯への機械工業進出、学徒の工場体験、在来産業労働力の都市集中、生活の都市化・洋風化、配給制度による国民の消費生活画一化など、社会・経済制度、技術、生活様式などの面で戦時中に形成され、戦後に受け継がれたものも多い。これらは成立の際に長期的見通しを以てつくられたものではなかったにせよ、戦後の企業のあり方、生産組織や生活様式までを規定することになったのである。今次大戦が日本社会に及ぼした災害については論ずるまでもないが、更にその広い影響の検討は今後にまたなくてはならない。ともあれ、いわゆる「日本型経済システム」の中核をなすものが1940年頃に総力戦遂行のために導入された戦時経済体制であるという仮説は、最近各方面で注目されているところである。

(2) 戦後改革と復興：占領軍による非軍事化と民主化は経済成長の出発点という見方がある。軍事費負担を免れたことにより、日本は生産能力の拡充と近代化に専念することができた。農地改革、財閥解体、労働改革は、生産性向上への刺激と所得分配の平等化を通じて市場を拡大させ、エリートの交替と活力の蘇りをもたらした。と同時に新憲法の制定に象徴される政治的民主主義と当時の日本人にとって羨望的だった高いアメリカの生活水準は、日本が追い求めるべきキャッチ・アップ目標となった。

復興過程では、インフレ対策、傾斜生産、復金融資が重点施策として進められたが、国民生活の窮乏は容

易に解消せず、経済危機の克服は冷戦の進展に伴う米国の政策転換、ドッジ・ライン、朝鮮戦争、特需など外圧の到来にまたなければならなかった。

(3) 高度成長：1950年初頭から1970年代初頭までの20年間にわたる高度成長の時代は、目ざましい変化の生じた時代であった。しかし、ここで生じた変化は連続的、数量的な性格のものであった。特定の政策や少数の英雄の業績ではなく、国民的な努力の積み重ねがもたらした成果であった。

その原動力となったのは技術革新新投資であり、神武景気（1956～57）、岩戸景気（59～61）という好況期を経て本格化して行った。技術革新の進展は、投資産業自体の設備投資を増大させるだけでなく、乗数効果により消費需要を喚起し、それがまた投資の増加を必要とさせることにより「投資が投資を呼ぶ」ブームをもたらした。

成長のメカニズムは、国内的には資本係数の低位と投資比率の上昇、国際的には世界貿易の成長率と日本輸出の世界輸入弾性値がともに高いことによって説明される。それらの成長条件の変貌に伴って高度成長も終りを告げることになる。一方、産業公害がクローズアップされ、成長のもたらす弊害が問題視されてきた。

(4) 調整期から持続的發展へ：2度の石油危機を乗り切る過程で、日本経済は減量経営、省エネ、産業構造転換などの面で良好な成果をあげ、1980年代半ばには宿願のキャッチ・アップを達成した。1人当りGNPでアメリカと肩を並べ、世界最大の債権国に成り上った。その時点でプラザ合意により、円高への移行が始まった。バブルの形成・崩壊を経て、今や円レートと購買力平価の乖離による内外価格差に苦しみ、産業空洞化の幻想に怯え、景気回復も思うに任せない。環境制約、成熟化、高齢化などの条件が一段と厳しい中で規制撤廃、分権システム構築、財政改革、金融システム正常化、日本的経営再興等の改革が唱えられている。

日本経済の強さの基本的要因が、自然発生的に形成された市場機構の活力と非公式な経営参加システムであり、その成功も幸運による所が大きかっただけに、今後一層主体的な行動が求められるのではなからうか。

## 創立 20 周年記念事業に向けて

生産システム工学系

川 上 正 博

創立20周年と聞くと、「えっ、もうそんなになるの」と不思議に思われる方も多いと思いますが、昭和51年（西暦1976年）10月1日に事務局仮庁舎を豊橋市分庁舎（八町通り2-16）に設置した時をもって開学とされますので、来年（1996年）は正に20周年にあたります。私は昭和53年4月に着任し、第1期生をお迎えしましたが、その前年の夏、豊橋東高校で高専からの第1回推薦選抜に呼び出され面接試験を行いました。その時、初代学長の榊先生が、「この学生は教えたいかどうかを判断しろ」と言われたのを印象深く覚えています。普通、試験では客観的評価を期待されていますが、主観的評価で良いとおっしゃられたところに、新構想大学にかける先生の意気込みを感じ、我々も士気を鼓舞されました。そのような選考をしたせいでしょうか初期の学生諸君は意欲的でかつ個性的な人が多かったように思います。

昭和53年にはA棟、B棟と福利棟しかありませんでしたが、雨降りの日には福利棟までの道がどろんこのぬかるみとなり、食事に行くのが大変だったことを覚えています。その後、二度にわたる整備で、現在、中庭は通りやすく快適なスペースとなりました。昭和54年にはC棟、D棟、E棟さらに、研究実験棟が建設され、平成元年には知識情報課程の新設（昭和63年）に伴いF棟が完成し、平成8年にはエコロジー工学課程の新設（平成5年）に伴いG棟が完成予定です。その他、技術開発センターをはじめとする付属施設も整い、当初は広漠とした感じだった敷地もかなり建物で埋まってきました。建物の数もさることながら歳月の経過を感じさせられるのは樹木の成長です。正門から事務棟へ向かう道の両側の木々や、講義棟の近くの櫛の背丈が伸びたの荷驚かされます。また、毎年卒業生の皆さんが植えてくださる桜も立派に育ち、花の頃には見事な桜林となっています。

さて、20歳といえば、人間でも成人式を迎えます。そこで、本学でも20周年を記念して色々な行事を計

画しています。20周年記念事業実行委員会は記念式部会、年史編集部会、事業部会から成っています。記念式部会では、記念式典、モニュメント除幕式、祝賀パーティー、学章の募集・決定等を担当します。記念式典から祝賀パーティーまでは平成8年10月9日に本学で開催する予定です。このなかで、これまでいろいろご支援いただいた学外諸団体の代表への感謝状贈呈、学章入選者の表彰および記念講演会も行います。モニュメントは同窓生の皆さんにご寄付をお願いし、中庭に時計塔を立てていただくことを考えております。なお、学章は広く一般に募集しますが、同窓生の皆さんにもふるって応募していただきたいと思っています。年史編集部会では、20年史の編集およびアンケート調査を担当します。アンケート調査は、これまでの研究・教育を振り返り、将来へ向けての指針を得るために、同窓生の皆さんにお願いするものです。事業部会では国際交流シンポジウム、ハイテクフェア等を担当します。来年は豊橋市の市政90周年にも当たり、これらの行事は豊橋市と共催で行う予定です。ハイテクフェアは2年に一度、市と商工会議所が組織する豊橋ハイテク振興会が主催し、本学が協賛するもので、来年で第7回を数えます。本学では、技術講演会、諸展示および大学公開を行っています。今回は特に力を入れる積もりです。また、大学公開は技科大祭でも毎年行っていますが、特に研究室紹介を充実したものとし、本学の研究活動を見ていただこうと思っています。

同窓生の皆さんには、モニュメント建設、アンケート調査、学章の応募と色々なことをお願いいたしますが、どうぞ、よろしく願いいたします。また、平成8年10月9日には本学へお出でいただき、本学の発展ぶりを見ていただくとともに、20周年を共に祝ってくださいませよう、ご案内いたします。



平成8年1月

豊橋技術科学大学  
同窓会会員 各位

豊橋技術科学大学同窓会  
会 長 近藤秀範

## 開学20周年記念の寄付金について

謹啓

謹んで新春のお祝いを申し上げます。

早いもので、豊橋技術科学大学は、今年で満20歳を迎えました。これもひとえに卒業生・修了生のご努力のおかげと、心より感謝しております。

そこで、先日お知らせ致しましたように、本学の開学20周年を記念して、同窓会では時計台を大学に寄贈したく存じます。この時計台の建設には400万円が必要と見込まれております。まだまだ目標額には達しておらず、何卒この趣旨にご賛同下さいまして、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。なお、寄付金の振込は、時計台建設のための工事期間を考慮して、なるべく平成8年3月までをお願いいたします。

皆様方のさらなるご発展をお祈り申し上げます。

敬具

1. 目標金額        4,000,000円
2. 申込み方法    1口    5,000円（ただし、口数は任意です。）
  - ① 郵便振替による振込  
口座番号 00860-6-17220  
加入者名 豊橋技術科学大学同窓会
  - ② 銀行への振込  
銀行の所定の用紙にて  
住友銀行 豊橋支店 普通口座 口座番号 368127  
「豊橋技術科学大学同窓会」名義の口座まで
3. 期     日        平成8年9月末日迄
4. 問い合わせ先  
〒441 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1  
豊橋技術科学大学同窓会  
担当 佐藤  
TEL    0532-47-0111（内線453）

## \*同窓生がお世話になった方々より\*

### 学生課よりの最近情報

学生課長 石井 征三郎

#### ☆ ロボコン国内大会2連覇

'95 アイデア対決ロボットコンテスト大学部門国内大会が9月3日大阪府堺市で行われ、書類審査に合格した国内14大学と海外からの4大学の18大学による熱戦が繰り広げられ、本学のロボコン同好会製作のロボット「しんちゃん4号」が見事優勝し、昨年の優勝に続く大会2連覇を達成した。ロボコン同好会は平成4年度に学長の名前（佐々木慎一）を冠した「しんちゃん1号」で初出場し、昨年悲願の初優勝を果たし史上初のV2となった。

#### ☆ 東国体に女性チーム初出場

第44回東海地区国立大学体育大会は7月上旬岐阜大学が当番で行われたが、この大会に開学以来初めて女子チーム（バトミントン部）が出場した。女子学生が増加する中で今後多種目に出場することを期待したい。なお、この大会で男子総合成績は8位（8チーム中）であった。

#### ☆ 学生宿舎国際棟の完成

学生宿舎の5棟目として、主として大学院修士課程学生用で外国人留学生と日本人学生（男女）との混住宿舎（シャワー・トイレ・ミニキッチン付、個室、100室）が平成6年4月に完成した。国際棟と命名し、現在留学生33人、日本人男子修士学生52人、日本人女子学生（修士・学部）15人が入居している。

#### ☆ 体育施設の整備

平成5年度及び平成6年度において、テニスコートの整備を行い6面中5面を全天候に、1面を人口芝とし、北側3面に夜間照明装置を設置してナイターが行

えるようになった。また、陸上競技場の西側に新たにアーチェリー場を設置した。更には野球場のダックアウトの設置、フェンスの改修等の体育施設の整備を行った。

#### ☆ 技科大祭と駅伝大会

技科大祭と開学記念駅伝大会は先輩の築いた伝統を守って毎年実施している。特に本年度の技科大祭は、来年の開学20周年に向けての前哨戦として、従来より充実したものにすべく実行委員会を中心に準備を進めている。（この印刷物が発行される頃には本年度技科大祭は終わっていると思われるが）

以上学生課が関わった最近の情報について思いのままに順不同でお知らせしたが、在学生諸君も先輩に遅れじとがんばっておりますので、機会あるごとにご指導くださり叱咤激励いただきたくお願いいたします。また、学生課職員一同も「魅力ある学園づくり」に微力ながらがんばっておりますので、ご来学されましたら是非お立ち寄り下さい。

皆さんのご健闘をお祈りいたします。



## \*研究室だより\*

### 蒔田研の近況

現在の研究室の人員構成は、D3-1名、D1-1名、M2-4名、M1-3名、B4-4名の総勢13名ですが、8月までは秋田高専に戻られた助手の渡部先生が、9月まではインドネシアからの留学生 Dinata さんが在籍していました。今年の特筆すべき点は何と言っても長い研究室の歴史の中で初めて留学生が来たことであり、わずか半年の短い期間でしたが、研究室に異国の新鮮な風を吹き込んでくれました。

我々の研究室では風洞を用いて、流体力学の基礎である乱流の実験的研究を行っています。実験装置は風洞から計測器に至るまでほとんどが自作であり、研究室に入って最初のうちは、たいていひたすら何らかの実験装置の一部を作り、卒論発表の1~2ヶ月ぐらい前になってようやくそれができると実験が始まり、さらに大急ぎで解析を行い、論文執筆と発表に漕ぎ着けるというのがおおよそのパターンで、そのような過程を通じて流体力学の研究とはどのようなものかを次第に体得していきます。最も重要な計測装置は「熱線流速計」と呼ばれる、機械系の学生にとっては多少抵抗のある、電子回路の塊のようなもので、作るのももちろん使うのも一朝一夕にはいきません。Dinata さんの我が研究室におけるテーマは、この熱線流速計の製作でした。彼はインドネシアのアンダラス大学の助手で、数人の学生も持っており、日本へ来る3ヶ月前に超美人の奥さん（写真で見せてもらった）と結婚したばかりで、来た当初は多少ホームシックになっていました。彼の大学では風洞はあるものの熱線流速計は高価すぎて買えないので、帰ったら自分の作った装置で乱流の研究をしたいとの強い希望により、彼にとって初めての電子回路作りに取り組みました。

蒔田先生は一昨年から学生生活委員長となられたこともあり、研究室にはほとんど顔を出せない程多忙の日々が続いています。そのため Dinata さんの直接指導には助手の渡部先生と我々学生があたりました。会話はもちろん英語です。Dinata さんや渡部先生は何

エネルギー工学系 西 沢 啓

の抵抗もなく言葉が出て来るのですが、私などは最初の頃はカタコトすら出ず、ジェスチャーと筆談で何とかコミュニケーションを図っていました。それでも意思の疎通はできるものでインドネシアの歴史や文化、土地の様子や食生活、宗教や様々な種族の事など色々知ることができ、1ヶ月もすると話すのにも慣れ、英会話に対する抵抗感もほとんど無くなり、自然に言葉が出るまでになりました。（ただし文法はめちゃくちゃ）Dinata さんも片言の日本語は話せるようになり、朝晩の挨拶以外にも、電子回路に取り組みながら、「ムズカシイ」「ガンバリマス」「モウチョットデス」などの単語もいつの間にか覚え、研究室の生活に次第になじんでいきました。しかし半年の期間はあまりにも短く、8月に渡部先生が秋田高専に戻ってしまうと、あっという間に Dinata さんの旅立つ番となり、研究室もちょっと寂しくなりました。

豊橋を離れる直前に研究室一同で開いたお好み焼きパーティーは非常に喜んでもらえ、ほぼ完成した Dinata さんの熱線流速計を前に皆で記念写真を撮ることができました。別れ際、一人一人と握手を交わし、「とっても幸せでした」と言って悲しそうな顔をしていたのが印象的でした。現在、10月下旬に送られてくるであろう Dinata さんの初めての赤ちゃんの写真を楽しみに待っている所です。



H.7.8 渡辺先生の送別会（OBも多数参加）にて左端が Dinata さん

## 榊原研究室とカレー

榊原研究室では月に1度、定例会なる催しを開きます。その内容は学生同士、また学生と教官の親睦を深めるための飲み会といったものです。

しかし、最近この飲み会の料理の傾向が変わってきているのです。私が4年生の頃は自分たちでひたすら唐揚げとかサラダとかフライドポテトなど作っていたのに、最近は酒のつまみがカレーになったりするので。基本にお酒が苦手な私にもはつきりわかる不自然さ……しかし、このカレー、ただのカレーじゃありません。

定例会で私たちの口に入るカレーはその辺のハ○スバーモントカレー辛口なんかではなく、インドネシア風カレーなのです。日本のカレーとどう違うかというところ、まず、どろどろしていないのです。そしてあまり辛くない。(辛くすることもあるそうです。)色は、ココナッツミルクを大量に入れるため白っぽい黄色。なかなかプリティーな色合いです。肉は鶏肉が入っています。他の具はたまねぎとじゃがいもとベビーコーン。ベビーコーンというとなんだかラーメンを思い出してしまいますが、これがカレーに合うのが不思議です。…



電気・電子工学系 小林 亜実

と、インドネシア風カレーのすばらしさを語ってきましたがこの横にビールがあるのは似合うような似合わないような……この日私はビールは飲まずにジュースを飲んでしまいました。ちなみにビールは冷やす時間が足りずぬるかったそうです。

ぬるいビールとインドネシア風カレーの定例会も楽しく終わり、次回の定例会に思いを馳せる榊原研究室の面々です。

次回はおでんがいいなあ……

おまけ インドネシア風カレーの作り方

材 料 鶏肉 ジャがいも たまねぎ

ベビーコーン ルー ココナッツミルク

作り方 鶏肉を切ってゆでておく

たまねぎはくし形に切って炒める

たまねぎにカレーのルーを入れる

更に炒めて水を入れる

鶏肉と切ったじゃがいもを入れてルーとココナッツミルクも入れてしばらく煮た後、ベビーコーンを入れる

できあがり……



## 「小寺研」改め「上野研」改め、現名「角田研」

物質工学系 無機物性工学研究室一同

修了生・卒業生の皆様いかがお過ごしでしょうか？皆様には毎年毎年、盆・暮れの時期になると色々なものを送っていただき、誠にありがとうございます。この場をおかりしてお礼申し上げます。

上野先生が静岡大学に移られて早3年、当初はどたばたしておりましたが、今では角田先生を中心とした研究体制もすっかり整い、いろいろな点で、ようやく軌道に乗り始めたかなという感があります。現在の教官構成は角田先生を筆頭に、水嶋先生そして昨年度から教務職員になられた大北先生の3人です。また、学生構成は研究生が1人、修士2年3人、1年3人、学部4年7人となっております。学生のほうは一時期にくらべると、かなり減少してしまいましたが、新たに餅つき大会や富士登山などの行事を加えて（いつまで続くかわかりませんが…）あいかわらずにぎやかにやっております。また、研究室が禁煙と成ったことや、フレックスタイム制が導入され、更に飲み会が減少したことにより、学生の健康状態も多少良くなる傾向にあります。しかし、飲み会が減ったことによって、色々なストレスが各個人にたまっているのかもしれない…。

さて、角田研と言えばソフトボール、ソフトボールと言えば角田研。5系内では無敵を誇る我が研究室でありましたが、本年度の5系ソフトボール大会では、学生の人数不足（言い訳その1）強敵バイオ研の台頭（言い訳その2）のために、まさかの初戦敗退を喫してしまいました。この雪辱をうち破り、過去の栄光をとりもどすために、そしてその後の大宴会をたで行うために、現在密かに大型新人の獲得や、有望選手の大規模トレードなど強化プログラムを計画中(!?)であります。本年度以後の吉報をお待ち下さい。

最後になって恐縮ですが、現在行われている主な研究は以下のとおりです。

『Pt-CeO<sub>2</sub>/Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の相互作用に関する研究』

『超音波噴霧燃焼法による触媒調製』

『廃棄プラスチックの油化触媒の開発』

『NO<sub>x</sub>除去触媒の開発』

『陽極酸化アルミニウム薄膜を用いた触媒調製』

『TiO<sub>2</sub>膜の光触媒機能』

『エチルベンゼン脱水素触媒の開発』

OBの方々、豊橋に来られた時には是非お寄り下さい  
角田研究室へ!!…



研究室旅行



餅つき大会



## いまどきの研究室—OB コミュニケーション ～7系 分子情報システム研究室 の場合～

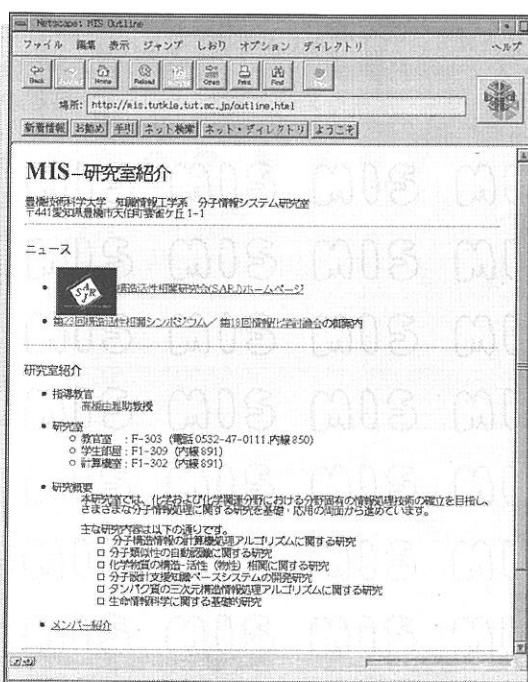
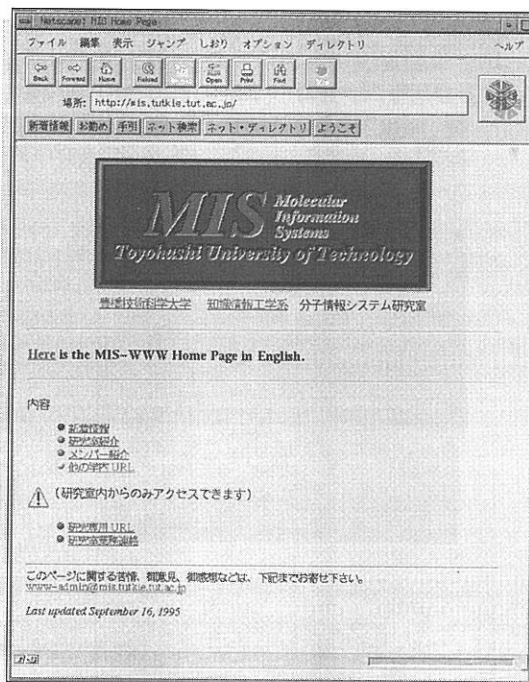
知識情報工学系 加藤 博明

世の中は、「マルチメディア」や「インターネット」がはやりのようです。最近では、専門誌だけでなく一般の新聞、雑誌、あるいはテレビ番組でもこれらの言葉が多く飛び交っています。

身近なところでは「電子メール」は使い始めると手放せなくなるくらい便利な道具です。最近では、例えば系内の事務連絡や図書館からの文献到着の知らせなども電子メールでやり取りされるようになってきています。また、私達の研究室では、研究室メンバーとOBとの連絡のための「メーリング・リスト (ML)」の運用を始めました。これは、研究室内に設定したあるメールアドレス (宛先) にメールを送ると、登録されているメンバー全員に自動的にメールを配送してくれるシステムです。幸い、OBの皆さんは就職先でメールが使える環境であったり、あるいは個人でパソコン通信に加入していて、全員 (といっても、分子情報システム研究室としてのOBは7名であるが) 電子メールで連絡が取れるようになってきました。当初はこのMLでは近況報告や誰かが豊橋に遊びにくる、といった情報が主でありましたが、近頃ではパソコンのネットワーク接続方法など、結構高度で実務的な話題で議

論が活発に行われています。この状況にはMLを作成した私達のほうが圧倒され、驚いています。また、こういった話題からもコンピュータ・ネットワークが身近なものになっており、これらの技術が要求されていることを改めて感じ、学生のうちにしっかりと勉強して身につけておこうと心に誓っているところでもあります。(実際に試すことのできる環境があるというのはとても貴重なことだという話もありました)

また、最近のインターネットの話題で忘れてはならないのはネットサーフィンとも呼ばれる「WWW (World Wide Web)」でしょう。今は、研究に関する話題やデータについてもこれを利用して、文字どおり世界中を渡り歩いて最新情報を収集しています。また、本学でも大学や各系の情報をそれぞれの「ホームページ」で公開しています。さらに、我が研究室でもホームページの公開を行っており、研究内容やメンバー紹介などの情報を見ることができます (URLと呼ばれる「住所」は <http://mis.tutkie.tut.ac.jp/> です)。もし、インターネットを利用できる環境があるならば、是非こうしたルートでも大学あるいは研究室を「訪問」して下さい。お待ちしております。



## 「最新の研究情報」の発行

本学教官の最新の研究動向を社会に広く迅速に公開するため平成4年から毎年「最新の研究情報」誌を発行していますが、このたび平成7年6月現在の最新号を発行しました。

これは、主として共同研究、技術相談など産学交流に役立てていただくため、昭和61年度から発行してきた「教官研究課題一覧」を見直し、充実を図ったものです。

内容は、1人1ページ、各研究テーマごとに「研究概要」を非専門の中間管理職の方にも分かり易いように紹介し、「関連文献」を挙げ、更に「キーワード」を設ける等、他大学にはない新しい試みで編集してあります。

また、目的の情報に効率よくアクセスできるよう目次欄で詳細な研究分野を網羅しました。

各教官自身で作成した原稿をそのままダイレクト印刷して、2,000部を発行しました。まだ余部がありますので、御希望の方は角2型(33cm×24cm)封筒に返信先を記入、返信料340円切手を貼付し、次の申込先にお送りください。

なお、本年度版がなくなった場合は、少々お待ちいただき来年度版をお送りしますので御承知ください。

「最新の研究情報」(平成7年6月現在)

申込先:

〒441 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学教務部

研究協力主幹付研究事業係

Tel. 0532-47-0111

内線 325

## 求む 投稿・表紙!!

### ■ 表紙

写真、絵、グラフィックデザイン等何でもOK!

・サイズ: B5版程度に縮小、拡大可能なもの。

※CM的な要素のものを除く。

採用の場合は薄謝を送付致します。

### ■ 投稿

23字/行 横書き 厳守

その他: 内容・長さ等は問いません。写真も添えていただければ幸いです。

随時、受け付けますので下記まで送付下さい。

〒441 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学内

同窓会事務局

同窓会誌 編集係

### ■ 会員からの一言

同窓会では会員の皆さんからの原稿を常時募集しておりますが、執筆するとなると、それなりの内容とある程度の長さが必要であるということ、ついついかしまってしまうのではないのでしょうか。そこでもっと気楽に投稿していただけるように、「会員からの一言」というコーナーを設けたいと思います。「結婚しました」とか「?月?日OB会開催」といった簡単な近況報告や連絡事項など、内容、長さは問いません。住所変更の通知や会費振替用紙の通信欄にでも結構ですし、もちろん葉書、封書で直接送っていただければ大歓迎。原則としてすべて掲載する予定ですので、どしどしお寄せください。投稿の際には、お名前、卒業あるいは修了年度、学科名をお忘れなく!

「頼まれた原稿は 今すぐポストへ」

編集委員からのお願いです。

## 平成6年度修了・卒業生就職先一覧

No	就職内定先	学部	修士	博士	計
一 般 企 業					
1	アイコクアルファ(株)	1			1
2	アイコット(株)			1	1
3	アイシン・エイ・ダブリュ(株)	1			1
4	アイシン高丘(株)	1	1		2
5	アイセロ化学(株)	1			1
6	アルバイン(株)	1			1
7	アンリツ(株)	2			2
8	(株) A i H O	1	1		2
9	愛知(株)	1			1
10	旭化成工業(株)	2			2
11	旭化成情報システム(株)	1			1
12	旭精機(株)	1			1
13	(株)東コンサルタント	1			1
14	油谷重工(株)	1			1
15	(株) I N A X	2			2
16	(株)伊藤建築設計事務所	1			1
17	伊藤忠テクノサイエンス(株)	1			1
18	石川島播磨重工業(株)	1			1
19	エステム(株)	1			1
20	エムテックスマツムラ(株)	1			1
21	S M C (株)	1			1
22	N S K ラーナー(株)	1			1
23	N T N (株)	1			1
24	NTTデータ通信(株)	1			1
25	NTT移動通信網(株)	1			1
26	NTT東海移動通信網(株)	1			1
27	NTT関西移動通信網(株)	1			1
28	遠州ファインケミカル(株)	1			1
29	オークマ(株)	2			2
30	オムロン(株)	1			1
31	(株)オリエンタルコンサルタンツ	1			1
32	オリジナル設計(株)	1			1
33	岡本(株)	1			1
34	鹿島建設(株)	1			1
35	川崎重工業(株)	1			1
36	川田建設(株)	1			1
37	関西ベイント(株)	1			1
38	関西電力(株)	1			1
39	(株)関西電工	1			1
40	キャノン(株)	2			2
41	岐建木村(株)	1			1
42	九州電力(株)	1			1
43	京セラ(株)	2			2
44	京都ダイガスト工業(株)	1			1
45	協立電機(株)	1			1
46	(株)クラベ	1			1
47	クラリオン(株)	1			1
48	(株)ケンウッド	1			1
49	(株)コスメック	1			1
50	コニカ(株)	1			1
51	小松フォークリフト(株)	1			1
52	五洋建設(株)	1			1

No	就職内定先	学部	修士	博士	計
53	高知カシオ(株)		1		1
54	(株)高純度化学研究所		1		1
55	(株)鴻池組		1		1
56	(株)サン土木コンサルタント	1			1
57	(株)佐藤鉄工所	1	1		2
58	(株)三協精機製作所		1		1
59	三建設備工業(株)		1		1
60	(株)三五	1			1
61	(株)山幸グループ		1		1
62	シーケーディ(株)		1		1
63	シャープ(株)		1		1
64	ショーボンド建設(株)		1		1
65	シライ電子工業(株)		1		1
66	シロキ工業(株)		1		1
67	J T トーシ(株)		1		1
68	島根トヨベット(株)	1			1
69	清水建設(株)		1		1
70	(株)社会調査研究所		1		1
71	(株)秀英予備校	1			1
72	神鋼電機(株)		1		1
73	新栄合板工業(株)	1			1
74	新光電気工業(株)		1		1
75	新神戸電機(株)		1		1
76	新日鉄情報通信システム(株)		1		1
77	新日本製鐵(株)		1		1
78	スズキ(株)	3			3
79	住友金属鉱山(株)		1		1
80	住友軽金属工業(株)		1		1
81	住友建機(株)		1		1
82	住友電気工業(株)		1		1
83	セーレン(株)	1			1
84	セイコーエプソン(株)		1		1
85	(株)ゼクセル		1		1
86	西部ガス(株)	1			1
87	積水ハウス(株)		1		1
88	設計事建所 双輪		1		1
89	(株)ソキア		1		1
90	ソニー(株)		1		1
91	ソニー国分(株)		1		1
92	ソフトウエア開発(株)		1		1
93	(株)総合設計事務所		1		1
94	タカオカ化成工業(株)	1			1
95	ダイコク電機(株)		1		1
96	ダイダン(株)	1	1		2
97	田端酒造(株)		1		1
98	(株)第一システムエンジニアリング		1		1
99	第一電工(株)		1		1
100	大栄産業(株)		1		1
101	(株)大建設計		1		1
102	(株)大仙		1		1
103	大東特殊鋼(株)		1		1
104	大日本印刷(株)		2		2
105	大日本マイクロソフトシステム(株)		1		1

No	就職内定先	学部	修士	博士	計
106	大日本土木(株)		1		1
107	大和ハウス工業(株)	1			1
108	(株)高岳製作所		1		1
109	(株)高木化学研究所		1		1
110	高木産業(株)		1		1
111	高松建設(株)	1			1
112	(株)谷山勉建築設計事務所	1			1
113	中外炉工業(株)		1		1
114	中部ガス(株)		1		1
115	中部テレメッセージ(株)		1		1
116	中部テレコミュニケーション(株)		1		1
117	中部住宅販売(株)		1		1
118	中部電力(株)		1		1
119	(株)長大		1		1
120	都築紡績(株)		1		1
121	(株)テイサク		1		1
122	テクノシステム(株)		1		1
123	T H K (株)		1		1
124	電源開発(株)		1		1
125	(株)トーエネック	1			1
126	トステム(株)		1		1
127	トピー工業(株)		1		1
128	トヨタカラーラ香川(株)	1			1
129	トヨタ車体(株)		1		1
130	(株)トヨタマックス		2		2
131	(株)トヨテック		1		1
132	東海テクノシステム(株)		1		1
133	(株)東海分析化学研究所	1			1
134	(株)東海理化電機製作所		2		2
135	東京電力(株)		1		1
136	(株)東芝		4		4
137	東芝セラミックス(株)		1		1
138	東芝情報システム(株)		1		1
139	東芝情報制御システム(株)		1		1
140	東北環境開発(株)		1		1
141	東北電力(株)		1		1
142	東洋建設(株)		1		1
143	東洋通信機(株)		1		1
144	東レ(株)		3		3
145	東レ・ダウコーニング・シリコン		1		1
146	凸版印刷(株)		1		1
147	豊田合成(株)		1		1
148	中日本建設コンサルタント(株)	1	1		2
149	ニチコン(株)		1		1
150	ニッタ(株)		1		1
151	(株)ニデック		1		1
152	西松建設(株)		1		1
153	(株)日建設計		1		1
154	日水コン(株)		1		1
155	日東工業(株)		1		1
156	日東電工(株)		2		2
157	日本アビオニクス(株)		1		1
158	日本オーチス・エレベータ(株)		1		1

No	就職内定先	学部	修士	博士	計
159	日本ガイシ(株)		1		1
160	日本サーボ(株)	1			1
161	日本テキサス・インスツルメンツ(株)		2		2
162	日本メカケミカル(株)		1		1
163	日本モトローラ(株)		2		2
164	日本化学発光(株)		1		1
165	日本原燃(株)		1		1
166	日本工営(株)		1		1
167	日本車輛製造(株)	1			1
168	日本電気(株)		1		1
169	日本電気マイコンテクノロジー(株)		1		1
170	日本電気アイシーマイコンシステム(株)		1		1
171	日本電気ホームエレクトロニクス(株)		1		1
172	日本電産(株)		1		1
173	日本電信電話(株)		8		8
174	日本電装(株)		1		1
175	(株)日本電装アイビックス		1		1
176	日本特殊研砥(株)		1		1
177	日本特殊陶業(株)		1		1
178	日本無機化学工業(株)	1			1
179	ネボン(株)		1		1
180	パブコック日立(株)		1		1
181	バイオニア(株)		1		1
182	(株)バスコ		1		1
183	万能工業(株)	1			1
184	(株)光建築研究所		1		1
185	(株)日立メデイコ		2		2
186	(株)日立エンジニアリングサービス	1			1
187	日立ソフトウェアエンジニアリング(株)		1		1
188	(株)日立建設設計		1		1
189	日立化成工業(株)		1		1
190	日立金属(株)		2		2
191	(株)日立製作所		6		6
192	日立造船(株)		1		1
193	日立中部ソフトウェア(株)		2		2
194	日野自動車工業(株)		1		1
195	フォセコ・ジャパン・リミテッド		1		1
196	(株)フジユニバンス	1			1
197	(株)福井村田製作所		1		1
198	富士システム機器(株)		1		1
199	富士ゼロックス(株)		1		1
200	富士機工(株)	1			1
201	富士機械製造(株)		1		1
202	富士写真フィルム(株)		1		1
203	富士精機(株)		1		1
204	富士通(株)		2		2
205	富士通エフ・アイ・ビー(株)		1		1
206	富士通テン(株)		1		1
207	富士電機(株)		1		1
208	富士電気化学(株)		2		2
209	古河電気工業(株)		1		1
210	豊生建設(株)	1			1
211	豊和化成(株)		1		1

No	就職内定先	学部	修士	博士	計
212	(株)マキタ		1		1
213	松下精工(株)		1		1
214	松下通信工業(株)		1		1
215	松下電器産業(株)		4		4
216	松下電工(株)		2		2
217	丸和セラミック(株)		1		1
218	(株)ミットヨ		1		1
219	ミツミ電気(株)		1		1
220	ミネベア(株)		2		2
221	ミノルタ(株)		3		3
222	三浦工業(株)		1		1
223	三谷商事(株)		1		1
224	三菱製紙(株)		2		2
225	三菱化成エンジニアリング(株)		1		1
226	三菱重工業(株)		3		3
227	三菱電線工業(株)		1		1
228	(株)妙香園		1		1
229	(株)メイテック		4		4
230	(株)メルコ		1		1
231	名菱電子(株)		1		1
232	森川産業(株)		1		1
233	森永製菓(株)		1		1
234	ヤクモ(株)		2		2
235	矢崎総業(株)		3		3
236	矢作建設工業(株)		1		1
237	(株)安井建築設計事務所		1		1
238	(株)安川電機		1		1
239	(株)柳伸建築設計事務所		1		1
240	ユニデン(株)		1		1
241	雄洋海運(株)		1		1
242	横河アナリティカルシステムズ(株)		1		1
243	横河ジョンソンコントロールズ(株)	1			1
244	横河ヒューレット・パッカード(株)		1		1
245	(株)横河技術情報		1		1
246	横河電機(株)		1		1
247	吉永機械(株)	1			1
248	(株)リコー		2		2
249	リンナイ(株)		1		1
250	ロックベイント(株)		1		1
251	(株)渡辺組	1			1
252	渡辺建設(株)		1		1
253	(学校法人)トヨタ名古屋整備学園中部日本自動車整備専門学校		2		2
254	地域問題研究所		1		1
255	(財)電力中央研究所横須賀研究所		1		1
小計			34	277	3314
国の機関					
256	豊橋技術科学大学			1	1
257	東北大学			1	1
258	名古屋工業大学		1		1
259	松江工業高等専門学校		1		1
260	都城工業高等専門学校		1		1
261	鳥羽商船高等専門学校		1		1

No	就職内定先	学部	修士	博士	計
262	通商産業省九州通商産業局		1		1
263	労働省労働基準局		1		1
264	陸上自衛隊		1		1
小計			7	2	9
その他の公共機関等					
265	鳥取県		1		1
266	石川県		1		1
267	香川県		2		2
268	豊橋市	1	5		6
269	岡崎市	1			1
270	松本市	1			1
271	堺市		1		1
272	日本道路公団		1		1
273	新技術事業団			1	1
274	日本放送協会		1		1
小計			3	12	16
合計			37	296	6339

(平成7年2月20日現在)

第44回東海地区国立大学体育大会成績一覧表

番号	種目	順位	優勝	準優勝	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	備考
1	陸上競技	男	静岡大 10	岐阜大 8	愛教大 6	三重大 5	名大 4	豊技大 3	名工大 2	浜医大 1	
		女	静岡大 6	愛教大 5	岐阜大 4	名大 3	三重大 2	浜医大 1			
2	水泳	男	名大 10	岐阜大 8	三重大 6	静岡大 5	愛教大 4	浜医大 3	名工大 2	豊技大 1	
		女	岐阜大 8	愛教大 6	静岡大 5	名大 4	三重大 3	浜医大 2	名工大 1		
3	硬式野球		(名工大・静岡大・愛教大・豊技大・三重大・名大・岐阜大)								オープン
4	準硬式野球		静岡大 10	名大 8	(浜医大・岐阜大5.5)		名工大・愛教大・豊技大・三重大2.5)				
5	テニス	男	(名工大・静岡大・愛教大・豊技大・三重大・浜医大・名大・岐阜大)								オープン
		女	(名工大・静岡大・愛教大・豊技大・三重大・浜医大・名大・岐阜大)								オープン
6	ソフトテニス	男	名大 10	岐阜大 8	名工大 6	三重大 5	静岡大 4	愛教大 3	浜医大 2	豊技大 1	
		女	三重大 6	名大 5	岐阜大 4	愛教大 3	静岡大 2	浜医大 1			
7	バスケットボール	男	愛教大 10	岐阜大 8	名大 6	静岡大 5	三重大 4	豊技大 3	名工大 2	浜医大 1	
		女	静岡大 6	愛教大 5	名大 4	三重大 3	岐阜大 2	浜医大 1			
8	バレーボール	男	名大 10	静岡大 8	三重大 6	愛教大 5	岐阜大 4	豊技大 3	浜医大 2	名工大 1	
		女	愛教大 4	三重大 3	岐阜大 2	静岡大 1					
9	卓球	男	名大 6	愛教大 5	名工大 4	静岡大 3	岐阜大 2	三重大 1			
		女	愛教大 5	静岡大 4	名大 3	三重大 2	岐阜大 1				
10	バドミントン	男	岐阜大 10	静岡大 8	名大 6	三重大 5	名工大 4	豊技大 3	愛教大 2	浜医大 1	
		女	名大 10	愛教大 8	名工大 6	岐阜大 5	静岡大 4	三重大 3	浜医大 2	豊技大 1	
11	サッカー		静岡大 10	名工大 8	浜医大 6	三重大 5	岐阜大 4	愛教大 3	豊技大 2	名大 1	
12	ハンドボール	男	愛教大 10	名工大 8	名大 6	岐阜大 5	浜医大 4	静岡大 3	三重大 2	豊技大 1	
		女	愛教大 4	三重大 3	岐阜大 2	静岡大 1					
13	柔道		静岡大 8	名大 6	(名工大・愛教大・豊技大・三重大・岐阜大 3)						
14	剣道	男	岐阜大 10	静岡大 8	名工大 6	(愛教大・豊技大・三重大・浜医大・名大 3)					
		女	岐阜大 6	愛教大 5	名大 4	(静岡大・三重大・浜医大 2)					
15	体操	男	静岡大 6	名大 5	愛教大 4	岐阜大 3	名工大 2	三重大 1			
		女	岐阜大 4	愛教大 3	静岡大 2	名大 1					オープン
16	馬術		三重大 6	名大 5	(名工大・静岡大・愛教大・岐阜大 2.5)						
17	空手道	男	名大 10	浜医大 8	愛教大 6	名工大 5	岐阜大 4	豊技大 3	三重大 2	静岡大 1	
		女	岐阜大 4	三重大 3	愛教大 2	名大 1					
18	弓道	男	名工大 8	名大 6	静岡大 5	岐阜大 4	三重大 3	愛教大 2	浜医大 1		
		女	静岡大 8	三重大 6	愛教大 5	名工大 4	岐阜大 3	名大 2	浜医大 1		
19	アーチェリー	男	三重大 5	岐阜大 4	静岡大 3	愛教大 2	豊技大 1				
		女	愛教大 4	岐阜大 3	三重大 2	静岡大 1					
20	少林寺拳法		名大 8	静岡大 6	三重大 5	愛教大 4	豊技大 3	名工大 2	岐阜大 1		
総合順位		男	名大 110	静岡大 105.5	岐阜大 94	愛教大 77	三重大 69.5	名工大 68	浜医大 37.5	豊技大 32.5	
		女	愛教大 59	岐阜大 48	静岡大 42	三重大 38	名大 37	名工大 11	浜医大 10	豊技大 1	

(備考) 表中の大学名の右数字は総合得点を示す。



## 同窓会事務局より会員の皆様へ

### ご 挨拶

同窓生の皆様には、お元気でご活躍の事と思えます。

さて、本学も開学以来、早いもので、来年度、開学20周年を迎えようとしています。ついこの前、開学10周年記念だったような気がします、いつのまにか、それから、もう10年が経ちつつあるということです。そこで、大学を中心に開学20周年記念事業準備委員会を組織し、同窓会としてもこれに賛同、協力をしていくことになりました。そして現在、開学20周年記念事業準備委員会を通じて、大学側と準備を進めております。

同窓会では、開学20周年を記念して時計台の寄贈、20周年記念誌の編纂などの事業へ協力しています。また記念事業に際し、同窓生の皆様にご寄付をお願いすることを計画しています。そのときは、ぜひとも本

同窓会会長（2系5期） 近藤 秀 範

学の発展のため、本学同窓生の意気を示すためよろしくご協力をお願い申し上げます。

また、同窓生の皆様で、ほかに記念事業として実施できると思われることがありましたら、ぜひともご提案いただければ幸いです。資金、人材、限りがありますが、できる限り協力し、開学20周年記念事業を成功させ、本学を盛り立て、同窓会の発展のため尽力してまいりたいと考えております。

同窓会設立後、10年を経過しましたが、まだまだ若く、層も薄い同窓会ですが、未来永劫、豊橋技術科学大学のOBが誇りを持って活躍できるようバックアップするための同窓会活動を続けてまいりたいと思います。皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成7年9月30日

### 同窓会事業報告（平成6年度から平成7年度）

#### 1. 会報の発行

平成6年度の会報（12号）については、予定から五ヵ月ほど遅れて平成7年5月に発行した。平成7年度の会報（本号）については、今年度中に発行する予定である。

#### 2. 会員名簿の管理と第3号の発行

昨年度から会員名簿のデータベースの管理を業者に委託した。次回の会員名簿の発行は、本学の開学20周年記念にあわせて、来年度の予定である。

#### 3. 卒業記念パーティの開催

新会員の同窓会活動への理解を深めてもらうことを目的に、在学生で構成される学友会との共催で卒業記念パーティをこれまで毎年開催してきた。平成6年度は実施済み、7年度も引き続き実施する予定である。

#### 4. 技科大祭への後援

在学生へ同窓会の存在をアピールすることを目的に、昨年度から技科大祭へ資金援助を行うこととなった。平成7年度も技科大祭へ昨年と同様の資金援助を行った。

#### 5. 本学の開学20周年記念事業への後援

来年度本学は開学20周年を迎える。これを記念して大学に時計台を寄贈することとなった。そのため今年度11月から本会員に寄付を募る予定である。

#### 6. 平成7年度同窓会役員の構成

名誉顧問 佐々木慎一 学長  
顧問 …  
会長 近藤 秀範 (2系5期)  
副会長 橋爪 進 (2系7期)  
事務局 橋爪 進 (2系7期)  
監事 高島 英幸 (6系6期)  
山本 一伸 (6系13期)  
会計担当 石井 宏幸 (4系10期)  
村本 裕二 (3系11期)  
見目 喜重 (3系11期)  
編集担当 水嶋 生智 (5系5期)  
川口 正剛 (5系6期)  
佐藤 裕久 (5系7期)  
大北 博宣 (5系13期)  
1系担当 柳田 秀記 (1系1期)  
咸本 広文 (1系11期)  
2系担当 近藤 秀範 (2系5期)  
橋爪 進 (2系7期)  
3系担当 村本 裕二 (3系11期)  
見目 喜重 (3系11期)  
4系担当 奥山 徹 (5系11期)  
塩見 彰陸 (5系8期)  
石井 宏幸 (4系10期)  
5系担当 水嶋 生智 (5系5期)  
川口 正剛 (5系6期)  
佐藤 裕久 (5系7期)  
大北 博宣 (5系13期)

6系担当 高島 英幸 (6系6期)  
山本 一伸 (6系13期)  
7系担当 神山 齊己 (4系7期)

#### 会費納入のお願い

本会の会費は平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業生、修了生で、入会費または終身会費が未納の方は、該当する系の振込先へ納入下さるようお願いいたします。

#### 会費

入会金 5,000円

終身会費 10,000円

#### 振込先

1系：郵便振込

口座番号 00830-1-133305

加入者名 豊橋技科大エネルギー  
工学同窓会

2系：郵便振込

口座番号 00890-1-124555

加入者名 豊友会

3系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 368127

口座名 豊橋技術科学大学同窓会

4系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 368127

口座名 豊橋技術科学大学同窓会

5系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 791362

口座名 物質工学同窓会

豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

6系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 813330

加入者名 建設工学同窓会

(幹事長 高島英幸)

豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

7系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 368127

口座名 豊橋技術科学大学同窓会

## 同窓会平成5年度収支報告および平成6年度予算案

項 目	平成6年度予算案	平成6年度決算	平成7年度予算案
収 入 の 部			
前 年 度 繰 越 金	4,282,253	4,282,253	5,936,234
入 会 金	3,100,000	3,050,000	3,100,000
預 金 利 息	100,000	68,796	70,000
会 報 広 告 代	100,000	70,000	70,000
小 計	3,300,000	3,188,796	3,240,000
収 入 合 計	7,582,253	7,471,049	9,176,234
支 出 の 部			
会 報 経 費	650,000	566,000	650,000
印 刷 代	600,000	534,000	600,000
投 稿 謝 礼	40,000	32,000	40,000
広 告 依 頼	10,000	0	10,000
役 員 会 経 費	140,000	1,280	120,000
通 信 費	10,000	1,280	10,000
資 料 作 成 費	30,000	0	10,000
役 員 手 当	100,000	0	100,000
卒 業 記 念 パ ー テ ィ ー	150,000	150,000	150,000
技 科 大 祭 後 援	—	100,000	100,000
名 簿 管 理 費	—	525,300	480,000
庶 務 経 費	100,000	192,235	100,000
小 計	1,040,000	1,534,815	1,600,000
次 年 度 繰 越 金	6,542,253	5,936,234	7,576,234
支 出 合 計	7,582,253	7,471,049	9,176,234

同窓会会員名簿第3号および  
開学20周年記念誌  
注文のご案内

開学20周年記念にあわせて、平成8年10月に会員名簿第3号を発行する予定です。今回は、開学20周年記念誌についてもあわせて販売いたします。是非ご注文下さいませようようお願い申し上げます。なお、ご注文期限は平成8年5月末日とさせていただきます。ご入金を確認され次第、送付いたします。

また、開学20周年誌は金額が未定ですので、ご注文ははがきでお願いいたします。金額が決まり次第、お知らせいたします。

お申込み要領

お近くの郵便局の備え付けの振替用紙に下記の項目をご記入後、合計代金を同窓会までお振り込み下さい。

口座番号	00860-4-47418
加入者名	豊橋技術科学大学同窓会
代 金	同窓会会員名簿 3,500円（送料込み）

なお、振込用紙に記載された住所へ送付いたしますので、振替用紙には、住所、氏名、電話番号、を正確にご記入下さい。また、氏名の下に卒業・修了年のご記入もお願いいたします。

「 熱意ある  
同窓会スタッフ  
を求めます 」

応募資格：TUT修了・卒業の方  
(名古屋, 豊橋近郊)

勤 務：年3回程度の会議  
及び自宅での作業 (約30hr/年)

待 遇：同窓会規定により優遇  
交通費支給

問い合わせ先：TUT同窓会事務局

## \* 豊橋技術科学大学同窓会会則 \*

### 第1章 総則

第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。

第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。

第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

### 第2章 事業

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 会員名簿の発行
- (2) 会報の発行
- (3) 総会の開催
- (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

### 第3章 会員

第5条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
- (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
- (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官
- (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者

2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

### 第4章 組織

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 名誉顧問 (豊橋技術科学大学学長)
- (2) 会長 1名
- (3) 副会長 2名(庶務担当)
- (4) 理事 原則として各系2名
- (5) 顧問 若干名

第7条 本会の役員の選出は、次の各号に定めるところにより行う。

- (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
- (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
- (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
- (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。

第8条 本会役員の任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。

第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

### 第5章 役員

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。

4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

(7) その他、本会の事業全般

2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

### 第6章 理事会

第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。

第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。

第14条 理事会は次の事項を審議する。

- (1) 本会の事業の運営に関する事項
- (2) 事業報告及び決算報告
- (3) 事業計画案及び予算案
- (4) 賛助会員の推薦に関する事項
- (5) その他、本会の運営に関する議案

第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

### 第7章 総会

第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。

2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。

3 臨時総会は、会長が、その必要を認められた時、開催する。

4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。

第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。

- (1) 会則の制定・改廃
- (2) 事業計画及び収支予算案
- (3) 事業報告及び収支決算案
- (4) その他、本会の運営に関し重要な事項

第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が務める。

### 第8章 会計

第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。

第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。

- (1) 入会金 5,000円
- (2) 終身会費 10,000円

2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。

第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。

第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

### 第9章 雑則

第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。

第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

### 付則

1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。

2 平成4年度及び5年度在学生は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。